菊池市における水辺に対する地域住民の認識に関する研究

○熊本大学　学生会員　光永和可　　熊本大学　正会員　田中尚人

1．背景・目的

かつて日本の水辺では，様々な日常的な活動が行われており，人々で賑わっていた．しかし今日，自然環境の変化等，様々な要因により，賑わいのある水辺風景は減少してきている．それに対し近年，水辺の賑わいを創出するための取り組みが全国で行われている．今後，地域住民や公民が一体となり活動を進めていく上で，かつての日常における人と川との関わり方を記録し，分析することは重要であると考える．

呉[1]は，「原風景は，多様な素材や主体で構成されているストーリー・物語として日常生活の中に現れる」と述べている．このことから，人々が原風景として思い描く水辺風景の記憶をもとに，かつての人と川との日常的な関わり方を考察することができるのではないかと考える．また大熊[2]は，かつて川での自治は地域住民が各々持つ知識や知恵，技術等を共有し，協力して行っていたことを述べている．これより，かつて水辺には地域固有の規範があり，それをもとに様々な日常的な活動が行われていたことが推測できる．

これらの背景を踏まえ，本研究では，川での日常的な活動の一つである川遊びとそのローカルルールに着目し，日常における人と川との関わり方を明らかにすることを目的とした．

2．対象地の特徴

菊池川は熊本県阿蘇市深葉を水源とし，菊池市，山鹿市，和水町，玉名市の 4 つの主要都市にまたがって流れる一級河川である．流域では米作りの歴史が長く， 2017 年に文化庁が定める日本遺産として認定された．

本研究では，菊池川流域の上流部に位置する菊池市を対象地として調査を行った（**図-1**）．**表-1** に，菊池川流域と菊池市における 80 年分の歴史を整理した．菊池川流域では昔から水害が多く，その被害を減少させるため，2002 年に菊池川支流である迫間川の上流に竜門ダムが建設された．また菊池市の中心部には井手が多く存在し，かつてはそこで洗濯等の日常的な活動が行われていたことが，現存する古写真から読み取れる．

表-1　菊池川流域と菊池市の歴史

西暦(年)	和暦(年)	菊池川流域における出来事	菊池市における出来事
1941	昭和16	菊池川流域洪水(梅雨性)	
1946	昭和21	菊池川流域洪水(梅雨性)	
1949	昭和24	菊池川流域洪水(台風)	
1953	昭和28	菊池川流域洪水(梅雨性，六・二六大水害)	
1954	昭和29	菊池川流域洪水(梅雨性)	・隈府町に温泉掘削 ・加茂川・砦・清泉合併して七城村となる
1955	昭和30		城北が菊鹿村になる ・泗水，田島，清泉の一部が泗水村となる
1956	昭和31		町村合併により菊池町となる
1962	昭和37	菊池川流域洪水(梅雨性)	
1963	昭和38	菊池川流域洪水(台風)	
1964	昭和39	竜門ダム予備調査開始「建設省菊池川河川事務所」	
1965	昭和40	菊池川流域大洪水(梅雨性)	
1968	昭和43		龍門ダム建設計画発表/七城町になる
1969	昭和44	菊池川流域洪水(梅雨性)	
1970	昭和45		竜門ダム調査事務所設置
1971	昭和46	菊池川流域大雨洪水	
1973	昭和48	菊池川流域大雨洪水	菊池市中央公民館開館
1974	昭和49	菊池川上流大雨洪水	
1978	昭和53		菊池市商工会館完成
1979	昭和54	菊池川流域大雨降水	
1980	昭和55	菊池川流域洪水(7月梅雨性)(8月台風)	
1982	昭和57	菊池川流域洪水(梅雨性)甚大な被害	
1987	昭和62	竜門ダム本体工事着工	
1989	平成元年	菊池川流域洪水(寒冷前線)	
1990	平成2年	菊池川流域洪水(梅雨性)甚大な被害/竜門ダム定礎式	
1993	平成5年	菊池川流域洪水(梅雨性)	
1997	平成9年	菊池川流域洪水(梅雨性)	
1999	平成11年	菊池川流域洪水(低気圧)	
2002	平成14年	竜門ダム建設完了	
2005	平成17年		菊池市・七城町・旭志村・泗水町が合併，菊池市となる
2006	平成18年	菊池川流域洪水(梅雨性)	
2009	平成21年	菊池川流域洪水(梅雨性)	
2012	平成24年	菊池川流域洪水(梅雨性)	
2017	平成29年	菊池川流域が日本遺産に登録	

3．菊池市の水辺風景の捉え方に関する分析

本章では，菊池市の水辺風景に着目し，その捉え方について分析した．1 節にて，菊池市立の全小中学校 15 校の校歌に関する分析を行い，2 節にて菊池市における水辺の古写真の分析を行った．また 3 節では，水辺の馴染みのある風景に関する調査を行った．

(1) 小中学校の校歌に関する分析

汐見ら[3]は，校歌には各資源あるいは地域の理想像が表現されていると述べた．また日本大百科全書[4]には，校歌とは「学校が独自の教育方針，校風，地域環境等を歌詞に折り込み独自に制定し，生徒に歌わせる歌」と記されている．本研究ではこれらを踏まえて，菊池市立の全小中学校の校歌から，川に関する歌詞のフレーズを抽出し，人々が菊池川に対して抱いているイメージを考察した．**図-1** に，菊池市立の小中学校の校歌のうち，川に関する

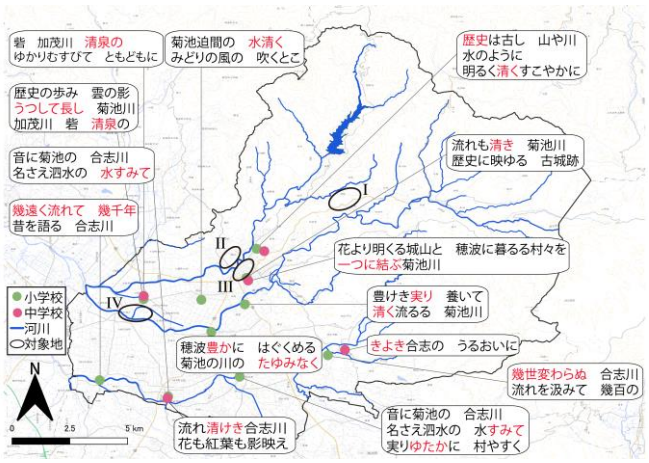

図-1　菊池市立小中学校校歌の川に関するフレーズマップ

フレーズを抜粋した．

結果，14/15 校の校歌に「菊池川」に関するフレーズが含まれていることから，菊池川が市民にとって地域を象徴するものであることが分かった．また，全 15 校の校歌中の頻出語として，「清い」が 11 件，「豊作・実り豊か」と「歴史が長い・途絶えない」がそれぞれ 5 件抽出でき，市民が菊池川に対してこれらのイメージを抱いていること等が分かった．

(2) 菊池市の水辺の古写真に関する分析

平岡ら[5]は，河川風景に関する古写真について，同一位置での現在の河川風景との比較を行い，景観の構成要素に視点を当て，変容の内容等を検証した．本研究でも，菊池市の水辺の古写真を収集し，風景の変化について考察した．例として，**図-2**，**図-3** に菊池市内の一地点における 1950 年代の水辺と，同一位置の現在の風景を示す．かつてここには井手が存在し，市民により洗濯等の日常的な活動が行われていた時代もあったが，道路拡張等により井手がふさがれ，現在その風景は見られなくなった．

図-2 1950 年代の水辺①

図-3 同一位置の水辺①

(3) 流域の馴染みのある風景に関する分析

本節では，菊池市民に“菊池川の馴染みのある風景”に関するインタビューを行い，その結果を分析した．

4．菊池市の川遊びに関する分析

本研究では，菊池市の最上流部 1 か所（I：重味道園地区），上流部 2 か所（II：玉祥寺地区，III：隈府地区），中流部 1 か所（IV：七城町菰入地区）の 4 地域で，川遊びとそのローカルルールに関する調査を行った（**図-1** 参照）．渡辺ら[6]は，「グループインタビュー調査では，集団に共有された経験や知識が語られる傾向がある」との考えを示しており，本研究でもその考えを参考に，同手法を選択した．4 章では，得られたデータから川遊びに関するコメントを抽出し，菊池市における川遊びの変遷を明らかにする．

表-2 4 地区におけるグループインタビュー調査の概要

対象地	重味道園地区	玉祥寺地区	隈府地区	七城町菰入地区	
日程	2019/12/14	2019/12/3	2019/12/9	2019/12/8	
対象者	AⅠ氏(83) BⅠ氏(78) CⅠ氏(71) DⅠ氏(65) EⅠ氏(60)女性 FⅠ氏(58) GⅠ氏(43) HⅠ氏(36) 計8名	AⅡ氏(86) BⅡ氏(81)女性 CⅡ氏(69) DⅡ氏(39) EⅡ氏(70)女性 計5名	AⅢ氏(85) BⅢ氏(71) CⅢ氏(70) DⅢ氏(68) EⅢ氏(54)女性 計5名	グループ1 AⅣ(85) BⅣ(83) CⅣ(82) 計3名	グループ2 DⅣ氏(76) EⅣ氏(67) FⅣ氏(66) GⅣ氏(63) HⅣ氏(60) 計5名
				個別:Y氏(48) 計1名	

表-2 に，4 地区における調査概要を示す．対象者の選出時には，年齢や性別が偏らないよう勘案した．また対象者全員に共通して，遊びの「種類」，「方法」，「場所」，「時代」，「教わった人」を聞くようにした．今後は得られたデータを地図に整理し，川遊び活動の変遷を分析する．

5．菊池市の川遊びにおけるローカルルールの分析

本章では，先述したグループインタビュー調査で得られたデータから，川遊びにおけるローカルルールに関するコメントを抽出した．

その結果，「見守りの規範」や「遊び場のエリアに関する規範」等，様々な規範に関する時代毎のコメントが抽出できた．今後はこれらのデータを「時代」や「地域」に着目し，共通点や相違点を整理した後に，川遊びにおけるローカルルールの変遷を明らかにする．最後には，その分析結果から，人々の川に対する認識の変化について考察する予定である．

6．人と川との関わり方に関する考察

本章では，前章までに明らかになったことを整理し，人と川との関わり方の変遷について述べる．また，関わり方の変遷要因についても考察する予定である．

参考文献

1) 呉宣児：語りからみる原風景心理学からのアプローチ，萌文社，2001 年 6 月．
2) 大熊孝：技術にも自治がある，社団法人農山漁村文化協会，2004 年 2 月．
3) 汐見昌子・笹谷康之：小中学校校歌にみる近江の風景イメージに関する研究，環境システム研究論文集 Vol. 29, 2001.
4) 小学館編：日本大百科全書 8，p563，1986.
5) 平岡直樹：天竜川沿川における新旧写真比較からみる景観の変容に関する研究，ランドスケープ研究 68(5)，2005.
6) 渡部陽介，横張真：行為と距離の観点からみた農村地域居住者が地域アイデンティティとして認識する景観の特性，ランドスケープ研究 73(5)，2010，p643-646.